

2年連続で全国大会に出場!

札幌東商業高等学校ソフトボール部

キャプテン

1年 柳沼優羽さん

2年 長谷川優花さん



令和元年10月に石狩市で開催された「全国高校選抜大会北海道予選会」で優勝し、3月20日から愛媛県で開かれる全国大会への切符を手にした札幌東商業高等学校ソフトボール部。同部で活躍する長谷川優花さんと柳沼優羽さん（ともに当別中出身）にお話を聞きました。

—ソフトボールを始めたきっかけは？

長谷川 父と兄が野球、母がソフトボールをやっていた影響で、中学校から始めました。

柳沼 小学3年から剣道をやっていましたが、姉が中学生の時にソフトボール部だった影響で、中学校から始めました。

—なぜ東商業高校でソフトボールをやろうと思ったのですか？

長谷川 高校では新しい部活に入りたいと思い、中国語や韓国語など外国語を広く学べる東商業高校に入学しました。入学後の部活動の見学の時、ソフトボール部の統

率のとれた練習風景に魅了され、ここでソフトボールをもう一度やってみたいと思い、入部しました。

柳沼 中学3年の最後の大会前に大きなケガをしてしまって出られなかったのが悔しくて、高校でもソフトボールを続けようと思いい、強豪の東商業高校を選びました。

—お互いにどんな人・選手か紹介してください。

長谷川 柳沼さんはとにかく努力家で、負けず嫌いです。私はできないとすぐにあきらめてしまうので、感心しています。

柳沼 中学の時と違い、人間関係やルールなどの悩みもあると思うけれど、チームメイトを上手に引っ張ってくれています。監督からの信頼も厚く、本当に尊敬できるキャプテンです。

—全国大会への意気込みは？

長谷川 自主練習日の月曜以外、平日は毎日16時から19時まで、

冬場は学校の中庭で練習しています。土日は北広島などの室内練習場を借りて実践的な練習を行い、3月の全国大会に向けて練習試合を組んでいく予定です。私は本番で緊張してしまうことが多いので、まずは普段どおりの力を出せるよう、リラックスして自分らしいプレイを心がけたいです。

柳沼 10月の北海道大会で自分のバッティングができず、とても悔しい思いをしたので、全国大会では自分らしい長打が打てるようにしたいです。DP（指名選手）という打撃専門での出場が多いので、守備につけるように守備練習にも力を入れています。

守備は長谷川さんがサード、柳沼さんはファーストで、ともに長打が打てるバッティングが持ち味の選手とのことです。二人が全国の舞台で実力を発揮できるよう、応援しています。頑張ってください！

(2月4日取材)